

社会福祉法人まりも会 清瀬療護園 広報紙

ほのぼの通信

第62号

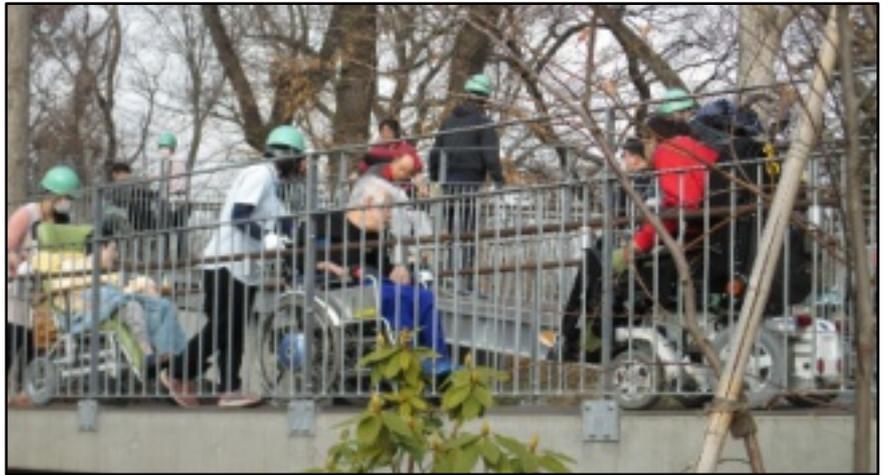
〒204-0023
清瀬市竹丘3-1-72
清瀬療護園
TEL:042-493-3235
Fax:042-493-3234
発行：地域福祉委員会（広報部門）

大規模防災訓練

消防士さんに訓練を見ていただく



大規模地震と火災が発生したことを想定しての防災訓練及び消火器訓練が2月20日（水）にありました。午前10時から広場（中庭）にて炊き出し訓練を開始し、非常食用のカレー及びごはん（共にレトルト）を湯せんしました。午後2時30分からは防災訓練です。地震が発生し、2階喫茶店から出火したことを想定し、利用者の方は建物内から広場へ避難しました。清瀬消防署の消防士さんには訓練の様子を見ていただきました。職員が自ら動けていて素晴らしいかと思えます。『初期消火』は消化班が行うだけでなく、実際には、近くにいた手の空いている人が周りに火事を知らせるなどの柔軟な対応が必ずです」等の意見をいただきました。職員からは「トランシーバーを持つ



ていたが、いろいろなところからの情報が入ってきて、どこからどこへの発信なのかわからないときがあった。『地震が発生した後、火災が発生したことを想定しての訓練だったが、どの時点で広場に避難したらよいかうまく情報が伝わってこなかった』「企画活動中など、たくさん利用者が集まっている場合は、避難誘導に何往復かする必要がある」等の意見が出ました。出された意見は今後活かしていきたいと思えます。



安全運転講習会がありました

福祉車両を運転するにあたって「事故を起こさない、なくす」ことを目的とした「福祉車両安全運転講習会」が3月2日(土)にありました。3時間の講習でした。前半は「事故発生メカニズム」「事故の



要因」「リフト(昇降機)の使い方」など、映像も交えての講義で、後半は実際に園の公用車を使って、基本的な操作の他、電源停止時(緊急時)の昇降機の操作の仕方などの実技をしました。



お正月 書初め



今年のお正月は「書き初め」をしました。書いたものはユニットやエレベーター前の壁に展示しました。

節分 豆まき

2月6日(水)に豆まき(節分)をしました。毎月来ていただいている地域のボランティアグループ「ほろほろコーラス」の方の歌の催し物の中で、鬼に扮した職員が会場に登場、利用者の方は配られた豆を鬼に投げつけ、厄を払い福を呼び込みました。ほろほろコーラスの方には唱歌「豆まき」を歌っていただき会場を盛り上げました。



坊主めぐり大会



「清瀬療護園坊主めぐり大会」が2月3月にかけて行われました。利用者の方31名がエントリーし、5人ごとにグループを作り、勝負をして各グループの1位の方の中で一番枚数が多い人が優勝(1位)となりました。上位3位までの方には景品が出ました。優勝(1位)になつた加藤さんはとても喜んでいました。



パンケーキ作り

地域交流イベント「パンケーキ作り」が2月16日(土)にありました。親子3組、中学生1名、利用者3名が参加し、フライパンでパンケーキ(ホットケーキ)を作り、ホイップクリームやいちご、パイナップルなどでデコレーションして、皆で食べました。参加した地域の方からは「作ったパンケーキはとてもおいしかったです。子供もとても喜んでいました」「楽しかったです」「また来たいです」等のお言葉をいただきました。



子どもたちによる ダンスショー

地域の小学生・中学生・高校生たちによるダンス・ショーが、3月10日(日)に1階活動室でありました。イギリスのロックバンド「グリーン」やアメリカのエンターティナー「マイケル・ジャクソン」のノリのいい曲などにのせて若さあふれるエネルギー溢る白雪姫?のパフォーマンスもありました。



地域の方に原稿を頂きました。
利用者の川島正幸さんとの思い出などがつづられています。

春に想う

吉田幸子(清瀬市中里在住)

思えば30年前、地域の主婦のグループで英語小组を作り、勉強を始めたところへ、車いすに乗った青年川島正幸さんが「仲間に入れてほしい」とやってきた。女性だけのグループだったが「ま、いいか」とWELCOME!

その後、彼から清瀬療護園の絵画クラブへの手伝いを頼まれ、初めて園を訪れた。狭い清瀬に居ながら、園の存在すら知らなかった。

川島さんは絵筆を口にくわえ描いていた。金子さんは絵筆を手にかけて固定して描いていた。それぞれのスタイル、手伝いの仕方を徐々に覚えた。

私たちもチームを作り、お当番を決め、初めてのボランティアを開始し、園の皆さんとの交流が始まった。園の行事にもどんどん参加した。楽しかったあの頃…。その頃に教えてもらい描いた絵は、今も額におさまり私の部屋を飾っている。

あれから〇〇年…!
清瀬療護園は新しい建物になり、

絵画クラブは消滅した。が、繋がりは消えてはいない。年に何回かは園を訪れる。去年の秋の文化祭の折り、最近はめったに揃わないゆかりの友人ら6人が、川島さんを囲み集合!明るいコミュニケーションルーム、喫茶店…。おいしいランチとコーヒーで、昔話や最近の各人の様子など「おしゃべり」を楽しんだ。

私たちは主に中里が居住地。近くにこんな居心地がいい場所があったらどんなにいいだろう。

すでにお年頃の私たちには、清瀬療護園は遠い。でも未だに市の施設や個人宅などを集いの場所として、英会話や太極拳、おしゃべり会などと忙しく集う。培った地域の友人との交流は、これからの私たちが益々支えるはずである。清瀬療護園は遠いが、これからも川島さんの顔を見に行き、おいしいコーヒーを前にして昔話や近況報告に出向きたいと思っています。

原稿をお寄せいただき
どうもありがとうございました。

ファンレター届いてほしい

清瀬療護園 利用者 土光郁子

大ファンの堀ちえみちゃんが、2月22日に口腔がんの摘出手術を受けたことをニュースで知りました。

私はとても心配になって、手紙（ファンレター）を書きました。手術が終わってもあまり無理しないでください、と書いて、堀ちえみちゃんが昔主演していた『スチーフーデス物語』を毎週楽しみに見ていた事、私の生い立ち、今の生活のことを書きました。早く良くなって、またテレビに出てほしいです。応援しています。

話は変わりますが、堀ちえみちゃんに手紙を出したので、私の大好きなジャニーズの山P（山下智久）にも手紙を書いて出しました。

去年の夏に映画『コード・ブルー』を観に行ったとき、山Pが倒れて意識不明になった場面で大泣きしてしまいました。死んじやいやだよー！って心の中で叫びました。倒れてから3日目になって目を少しづつ開けるようになって意識が戻りました。よかったですー！って嬉しかったです。



4月から山Pの新しいドラマも始まりました。とても楽しみにしています。そんなことを手紙に書きました。私の手紙、読んでくれるといいな。

職員紹介

間野悠（理学療法士）

（まの はるか）

昨年4月に入職し、ちょうど丸一年が経ちました。同じ学校出身のPTの紹介で清瀬療護園を知りました。

前職では乳幼児者が対象だったため、入職した頃は利用者様の疾患から接し方までわからない事だらけでしたが、職員の皆様が職種の垣根を越えてご指導くださり今に至ります。

清瀬療護園では、運動介入、補装具対応、他施設への出向から簡単な文章の英文翻訳（笑）まで多岐にわたって担当していますのでよろしくお願ひ致します。



加藤未来（理学療法士）

（かとう みく）

昨年7月に、育休に入られた職員の代替として非常勤で関わったことをきっかけに入職致しました。

清瀬療護園では、重度障害者施設での経験を生かし、車椅子や補装具の作成を担当しています。また、小児の療育や知的障害の方の入所支援を行ってきたことから、呼吸理学療法や筋膜リリースによる痛みの緩和治療など専門知識を使用し運動介入を行っています。

当施設でのリハビリに関して分からないことがあればお気軽にご相談ください。



伊藤加奈生活支援課

（いとう かな）

12月から生活支援員として働かせて頂いております。

以前は知的障害施設の作業所、短期入所、日中一時支援、グループホームを兼務していました。

作業所では、受注作業（チラシ折り、箱折り、清掃等）と自主生産（煎餅の生産、販売）があり、主に自主生産を担当していました。また行事として、所外活動や宿泊旅行があり、利用者様と色々な所に行ったりと、普段は出来ない経験をすることができました。療護園でも多くのことを学びたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。



【編集後記】

漫画家手塚治虫が残した『火の鳥』の続編の構想原稿を元に、直木賞作家の桜庭一樹さんが書くことになった『小説火の鳥（大地編）』の連載が、4月から朝日新聞の土曜日別刷り版でスタートしました。手塚作品でおなじみの鼻の大きい「猿田博士」や陰のあるキャラクター間久部緑朗（ロック）などが初回から登場し、興味深く読みました。手塚治虫の漫画が目の前に浮かんでくるようでした。これから楽しみです。◆新しい元号が「令和（れいわ）」に決まりました。読みやすくよかったです（須永）

